

2021（令和3）年度 星槎大学・大学院 学位記授与式

学長式辞

本日ここに、2021年（令和3年）度星槎大学・大学院 学位記授与式を挙げるに当たり、星槎大学において学位記を取得された皆様並びにご家族及びご関係者の皆様方に、本学を代表して、心からお慶びを申し上げます。本年度の学位記授与式は、昨年度一昨年度と同様に、新型コロナウイルスの影響で、止む無くオンライン形式での挙行となりました。皆様の中でこの2年間スクーリングを受けられた方々の中には、通信技術のスキルの獲得で苦労された方々、小さいお子さんをお持ちのために自宅で落ち着いて受講できなかった方もおられたことでしょう。また大学院の皆さんの中には、指導を受ける教員や学友と直接対面が叶わないまま修了となった方もいらっしゃるかもしれません。しかし、そうした困難を乗り越え、今日を迎えた方々には、学位を取得されたことをお祝いすると同時に、心から敬意を表したいと思います。

さて、本年度、本学での学修を修了し、めでたく学位を取得された皆様は、共生科学部105名、大学院は、教育学研究科教育学専攻修士課程23名、教育実践研究科専門職学位課程23名の計46名でございます。このうち、昨年の9月末に修了された方が学部は20名、大学院は13名、本年の3月に修了された方が学部は85名、大学院は33名です。その平均年齢は学部が約34歳、大学院が約49歳です。また、住まいは北は北海道から南は沖縄まで多くの地域にまたがっており、これは、本年度

も年齢や地域などで幅広い方々が本学で学修されたことの証しだと思います。

さて、話を広く社会に向けますと、現在、本学が目指す共生社会とは真逆の大変な分断が進行中です。星槎大学 HP に記載されている建学の精神を紐解いてみますと、「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。」という言葉に続き次の文書が記されております。「人類の歴史は、絶えることのない長い戦いの歴史でもありました。第二次大戦後のアメリカを中心とする資本主義陣営と、ソ連を中心とする社会主義陣営との激しい対立の終焉も平和をもたらすものではありませんでした。冷戦構造の中で燻っていた民族や宗教などの火種が燃え上がり、戦いは世界に拡散した観すらあります。今、主義思想や人種・民族、宗教あるいは国家間の貧富の格差など諸々の異なる条件を与件として、共生する世界の構築が強く求められる所以であります。」

この文書は 2004 年に本学が設置されるにあたって記された文書でしたが、それから 18 年経った現在、30 年前に終結したはずの厳しい対立の構図が、資本主義対社会主義といった概念を超えて再現されつつある状況を、私たちはテレビなどの報道を通して、目の当たりにしています。今後こうした情勢がどのように変化していくのか今の時点で予断は許されませんが、心が痛むばかりです。

そして 2004 年の文書では次に、「この共生という観点から我が国を見

れば、高齢者や障害を有する人々への福祉や教育上の対応の遅れ等々、未だ豊かな社会を共有しているとは言えない状態にあります。今、更なる豊かに共生する社会の構築が求められるところであります。」と記されていますが、コロナ禍の中で、こうした状態はますます露呈した感じが致します。共生科学や共感理解教育を遂行する本学の使命と課題はますます大きくなると思います。そしてさらに続いて、「人と自然との関わりに目を転じますと、生態系の頂点に立つ我々人類の人口の激増とその営みによって、森林破壊、水質・大気汚染、温暖化等々の環境破壊が加速され、このままでは宇宙でも稀有な、生命に溢れる水と緑の惑星地球における生命の生存環境が 損なわれるおそれがあります。次の世代に豊かな生存環境を引き継ぐことができるように、今、自然との共生が強く求められる所以であります。」と記されている状態も、「人新世（じんしんせい、ひとしんせい、Anthropocene）」という言葉が広く使われるようになった現在、深刻度を増しております。ローカルな視点とグローバルな視点の双方で、「地球との和解」を考える「人と自然の共生」や、数日前に起こった地震などにみられるような「自然の怖さ」も念頭に置いた「自然と人の共生」を考えることが、ますます重要となるでしょう。

そうした状況の中で、本学共生科学部のディプロマポリシー（学位授与の方針）には、前提として明記されている「共生科学部は、人を認める、人を排除しない、仲間を作るという三つの約束と人と人、人と自然とが共生する社会の創造に貢献するという教育理念に基づき、＜21 世紀を創造する広

く深い知の涵養><共生する心の耕作><課題探究能力の育成><インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成>を教育目的とし、<星槎共生スピリット>を身に付けたものに学位を授与します。」と明記されています。この共生スピリットは、教育に関して課題探求、問題解決を行い、「共生社会の創出に貢献していく」教育学研究科修士修了生や、教育課題の解決を目指し、現場において「優れた実践力・指導力」を発揮していくことを目指す教育実践研究科修了生にも同様に期待されるものであります。この三つの約束に基づく共生スピリットを、今日晴れて学位を獲得された皆様にかみしめて頂きたく存じます。

学位記授与式は英語で Commencement と呼ばれます。もともと始まりという意味を持つ Commencement がなぜ学位記授与式という意味でも使われるのか、それは、学位記授与式が大学で学修したことを、新しい生活の始まりに繋げる記念すべき式だからです。

ですから、皆さんにとって、今日は学びの終わりの日ではなく、本学で学び、身につけたことを、それぞれの現場で活かそうと努力することを始める日なのです。その思いを胸に刻んで、互いに頑張りましょう。皆さんの今後のご活躍をお祈りし、学長としての式辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2022 年（令和 4 年）3 月 19 日

星槎大学 学長

山脇直司